

# 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[ELM wIPS アラーム フロー](#)

[ELM の導入に関する考慮事項](#)

[ELM と専用 MM の比較](#)

[On-Channel および Off-Channel のパフォーマンス](#)

[WAN リンク全体での ELM](#)

[CleanAir 統合](#)

[ELM の機能と利点](#)

[ELM ライセンス](#)

[WCS での ELM の設定](#)

[WLC からの設定](#)

[ELM で検出される攻撃](#)

[ELM のトラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

## 概要

Cisco Adaptive Wireless Intrusion Prevention System ( wIPS ) ソリューションは、Enhanced Local Mode ( ELM ) 機能を追加します。これにより、管理者は、導入されたアクセス ポイント ( AP ) を使用して、個別のオーバーレイ ネットワークを必要することなく包括的に保護します ( [図 1](#) )。ELM の前および従来の Adaptive wIPS 導入において、専用モニタ モード ( MM ) AP は、PCI 準拠二重、または不正セキュリティ アクセス、ペネトレーションおよび攻撃を提供する必要があります ( [図 2](#) )。ELM は、CapEx および OpEx コストを削減し、ワイヤレス セキュリティ実装を簡素化する同等のサービスを効果的に提供します。この資料は ELM にだけ焦点を合わせ、MM AP の既存の wIPS 配備利点を修正しません。

図 1 : 拡張ローカル モード AP 導入

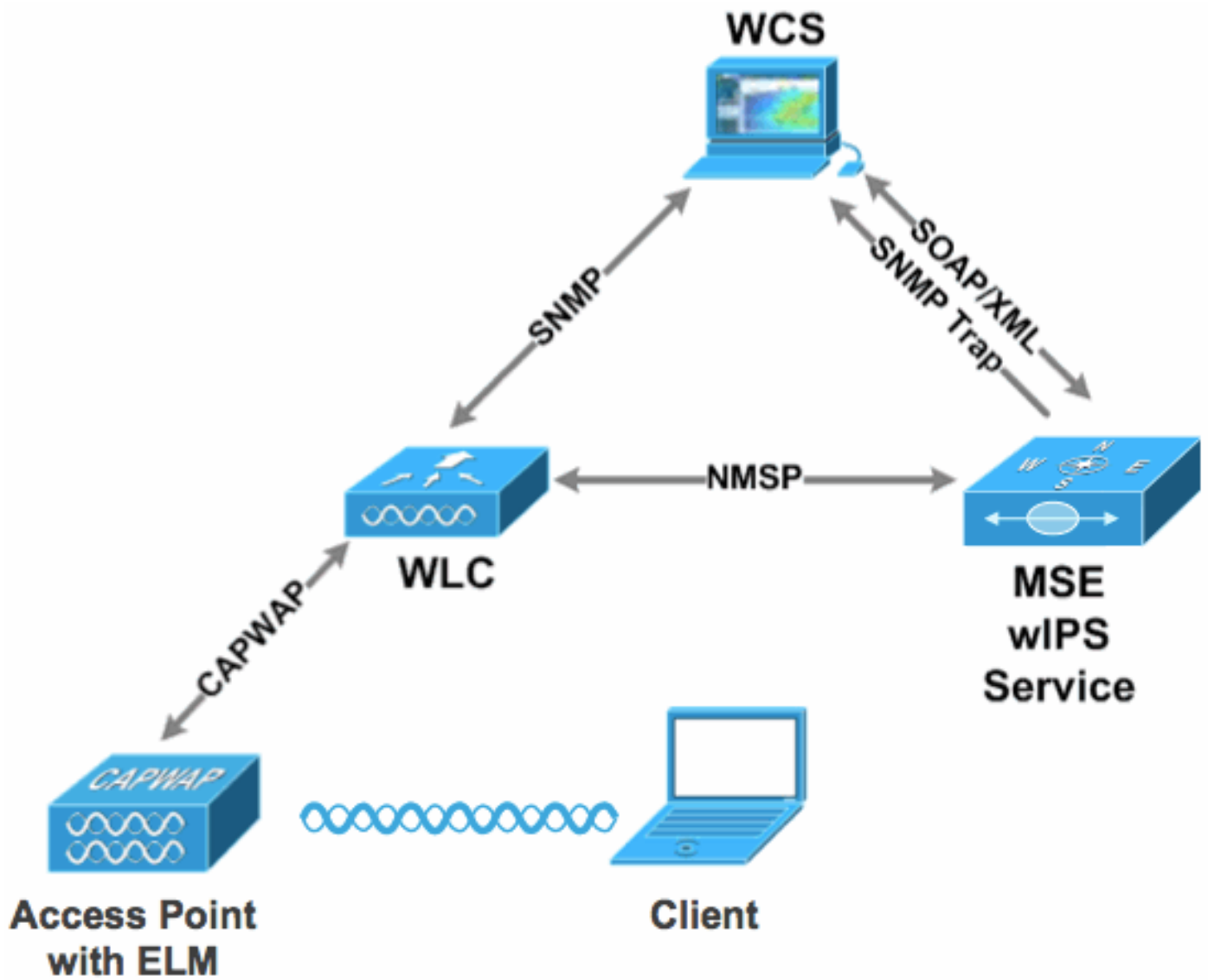
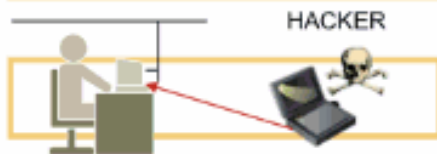


図 2：上位のワイヤレスセキュリティ脅威

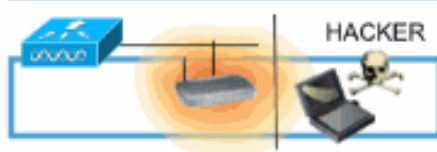
### On-Wire Attacks

#### Ad-hoc Wireless Bridge



Client-to-client backdoor access

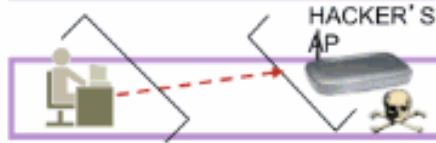
#### Rogue Access Points



Backdoor network access

### Over-the-Air Attacks

#### Evil Twin/Honeypot AP



Connection to malicious AP

#### Reconnaissance



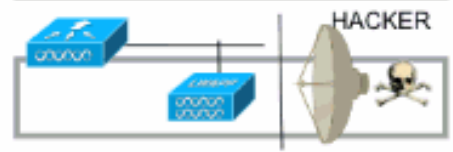
Seeking network vulnerabilities

#### Denial of Service



Service disruption

#### Cracking Tools



Sniffing and eavesdropping

## 前提条件

## 要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

## 使用するコンポーネント

### ELM の必須コンポーネントおよび最小コード バージョン

- Wireless LAN Controller ( WLC ) : バージョン 7.0.116.xx 以降
- AP : バージョン 7.0.116.xx 以降
- Wireless Control System ( WCS ) : バージョン 7.0.172.xx 以降
- モビリティ サービス エンジン : バージョン 7.0.201.xx 以降

### WLC プラットフォームのサポート

ELM は、WLC5508、WLC4400、WLC 2106、WLC2504、WiSM-1 および WiSM-2WLC プラットフォームでサポートされます。

### AP のサポート

ELM は、3500、1250、1260、1040 および 1140 などの 11n AP でサポートされます。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

## 表記法

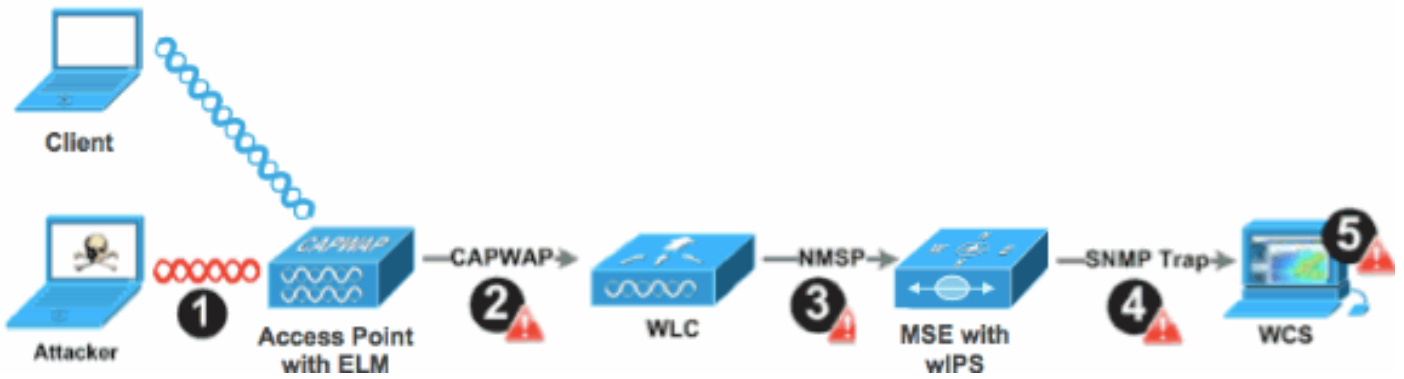
ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## ELM wIPS アラーム フロー

攻撃は、信頼できるインフラストラクチャ AP で発生した場合だけ意味があります。ELM AP は、コントローラを検出および通信して、WCS 管理での報告のために MSE とアソシエーションします。[図 3](#) は、管理者側から見たアラーム フローを提供します。

1. 攻撃が、インフラストラクチャ デバイス ( 「信頼できる」 AP ) で発生する
2. CAPWAP から WLC で通信する ELM AP で検出される
3. NMSP を介して MSE に透過的に渡される
4. SNMP トラップを介して WCS に送信される MSE の wIPS データベースにログインする
5. WCS に表示される

### 図 3 : 脅威検出およびアラーム フロー



## ELM の導入に関する考慮事項

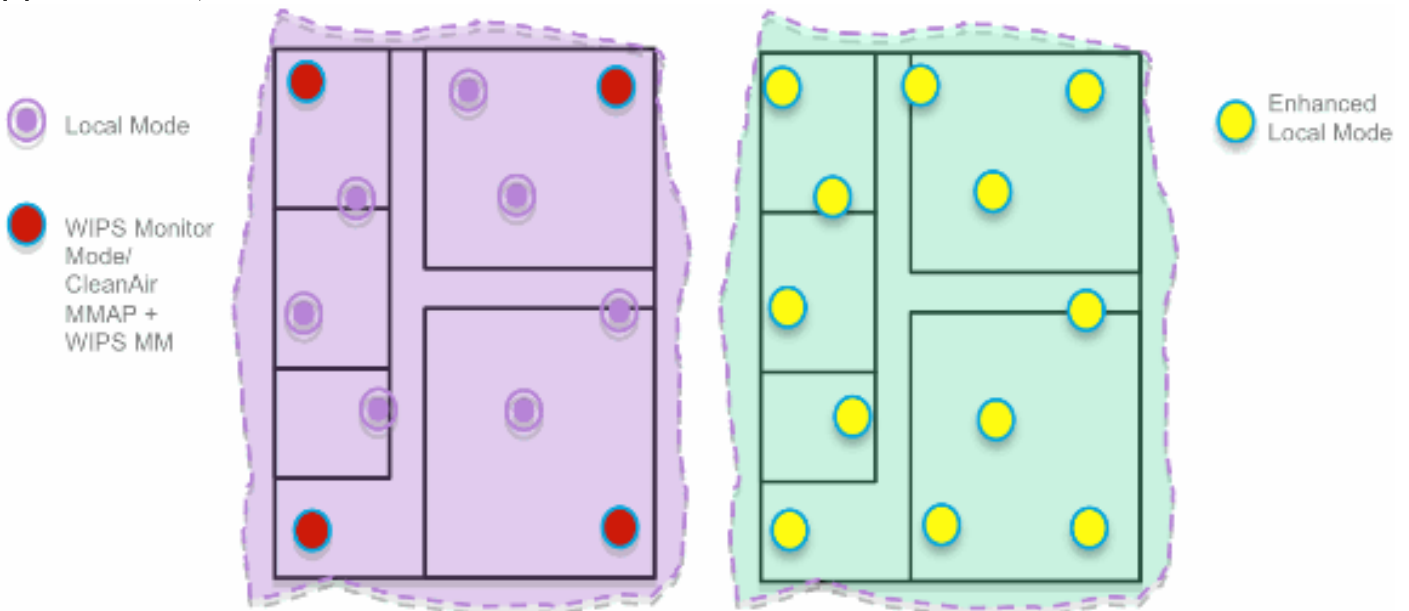
ネットワークのすべての AP で ELM を有効にすることを推奨します。これにより、ネットワーク オーバーレイまたはコスト、あるいはこれらの両方を考慮しながら、ほとんどのカスタマー セキュリティ ニーズを満たすことができます。ELM の主機能は、データ、音声およびビデオ クライアント、サービスのパフォーマンスに影響を及ぼすことなく、On-Channel 攻撃で効果的に機能します。

## ELM と専用 MM の比較

図 4 は、wIPS MM AP および ELM の標準導入間の通常の接触を提供します。この例では、両方のモードの一般的なカバレッジ範囲は次のような前提です。

- 専用 wIPS MM AP の一般的なカバレッジ範囲：15,000 ~ 35,000 平方フィート
- クライアント サービス AP の一般的なカバレッジ範囲：3,000 ~ 5,000 平方フィート

図 4：MM とすべての ELM AP のオーバーレイ



従来の Adaptive wIPS 導入の場合、すべての 5 ローカル モード AP に対して 1 MM AP という比率を推奨します。これは、最適なカバレッジ範囲を実現するネットワーク設計や専門知識により異なる場合があります。ELM を考慮することで、管理者は、既存のすべての AP で ELM ソフトウェア機能を有効にするだけで、パフォーマンスを維持しつつ、MM wIPS 操作をローカル データ サービス モード AP に効果的に追加できます。

## On-Channel および Off-Channel のパフォーマンス

MM AP は無線の 100% を利用しますか。それが WLAN クライアントを動作しないので、すべてのチャンネルをスキャンするための s 時間。ELM の主機能は、データ、音声およびビデオ クライアント、サービスのパフォーマンスに影響を与えることなく、On-Channel 攻撃で効果的に機能します。ローカル モードの場合、Off-Channel スキャンが異なります。アクティビティによっては、Off-Channel スキャンは、最小維持時間を提供し、攻撃を分類および決定するための十分な情報を収集します。例は準である、そしてところにとある AP 音声 クライアントがもしれませんか。s RRM スキャンは音声 クライアントがサービスは影響を受けていないことを確かめるために引き離されるまで延期されます。この場合、Off-Channel の ELM 検出が最適と見なされます。すべて、カントリーまたは DCA チャンネルで機能する隣接 ELM AP は、効果的であるため、すべてのローカル モード AP で ELM を有効にして、保護カバレッジを最大にすることを推奨します。すべてのチャンネルでのフルタイムの専用スキャンが必要な場合、MM AP を導入することを推奨します。

次に、ローカル モードと MM AP の違いについて説明します。

- ローカル モード AP : WLAN クライアントにタイム スライシング Off-Channel スキャンを提供し、各チャンネルで 50 ms 間リスニングして、すべて/カントリー/DCA チャンネルの設定可能なスキャンを実行します。
- モニタ モード AP : WLAN クライアントにサービスを提供せず、スキャンだけを行い、各チャンネルで 1.2s 間リスニングして、すべてのチャンネルをスキャンします。

## WAN リンク全体での ELM

シスコは、低帯域幅 WAN リンクでの ELM AP の導入など、困難な状況で機能を最適化するために努力を重ねています。ELM 機能は、AP での攻撃シグニチャの判別における事前処理を行い、低速リンクで機能するように最適化されています。ベスト プラクティスとして、WAN 経由の ELM のパフォーマンスを検証する基準をテストおよび測定することを推奨します。

## CleanAir 統合

ELM 機能は、CleanAir 操作を効率的に補助し、同様のパフォーマンスを実現して、次の既存の CleanAir スペクトラム対応のメリットを MM AP の導入に提供します。

- 専用シリコン レベル RF インテリジェンス
- スペクトラム対応、セルフヒーリングおよび自己最適化
- 非標準のチャンネル脅威および干渉の検出および緩和
- Bluetooth、マイクロ波、コードレス電話などの非 Wi-Fi 検出
- RF ジャマーなどの RF 層 DOS 攻撃の検出および特定

## ELM の機能と利点

- ローカルおよび H-REAP AP のデータ Adaptive wIPS スキャン
- 個々のオーバーレイ ネットワークを必要としない保護
- 既存の wIPS カスタマーが無料 SW ダウンロードとして利用可能
- ワイヤレス LAN の PCI 準拠のサポート

- フル 802.11 および非 802.11 攻撃の検出
- 科学捜査およびレポーティング機能の追加
- 既存の CUWM および WLAN 管理との統合
- 統合または専用 MM AP の柔軟な設定
- AP での事前処理によるデータ バックホールの最小化 (つまり、非常に低い帯域幅のリンクでも機能します)
- データ提供への影響の縮小

## ELM ライセンス

ELM wIPS は、新しいライセンスをサービスに提供します。

- AIR-LM-WIPS-xx : Cisco ELM wIPS ライセンス
- AIR-WIPS-AP-xx : Cisco Wireless wIPS ライセンス

ELM ライセンスに関する追加の注意事項 :

- wIPS MM AP ライセンス SKU がすでにインストールされている場合、これらのライセンスは ELM AP でも使用できます。
- wIPS ライセンスおよび ELM ライセンスは、wIPS エンジンのプラットフォーム ライセンス制限に対してまとめてカウントされます。制限は、それぞれ、3310 で 2000 AP、335x で 3000 AP です。
- 評価ライセンスには、wIPS で 10 AP、ELM で 10 が含まれ、期間は 60 日間です。ELM よりも前の評価ライセンスでは、20 wIPS MM AP が許可されていました。ELM をサポートするソフトウェアバージョンの最小要件を満たす必要があります。

## WCS での ELM の設定

図 5 : WCS を使用した ELM の設定

AP Name	Ethernet MAC	IP Address	Radio	Map Location	Controller	Client Count	Admin Status	AP Mode
<input type="checkbox"/> demo-AP3502i-S	00:22:90:e3:37:dc	10.10.20.103	802.11b/g/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	10.10.10.5	0	Enabled	Local
<input type="checkbox"/> demo-AP3502i-S	00:22:90:e3:37:dc	10.10.20.103	802.11a/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	10.10.10.5	0	Enabled	Local
<input type="checkbox"/> demo-AP1260	98:66:f2:ab:1f:96	10.10.20.113	802.11b/g/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	10.10.10.5	0	Enabled	Local
<input type="checkbox"/> demo-AP1260	98:66:f2:ab:1f:96	10.10.20.113	802.11a/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	10.10.10.5	0	Enabled	Local
<input type="checkbox"/> demo-AP3502i-J	04:7d:4f:3a:ed:48	10.10.20.105	802.11b/g/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	10.10.10.5	0	Enabled	Local
<input type="checkbox"/> demo-AP3502i-J	04:7d:4f:3a:ed:48	10.10.20.105	802.11a/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	10.10.10.5	0	Enabled	Local
<input type="checkbox"/> demo-AP3502i-MM	04:7d:4f:3a:06:62	10.10.20.114	802.11b/g/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	Not Associated	0	Enabled	H-REAP
<input type="checkbox"/> demo-AP3502i-MM	04:7d:4f:3a:06:62	10.10.20.114	802.11a/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	Not Associated	1	Enabled	H-REAP
<input type="checkbox"/> demo-AP1142n	00:22:90:90:99:6f	10.10.20.111	802.11b/g/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	Not Associated	0	Enabled	H-REAP
<input type="checkbox"/> demo-AP1142n	00:22:90:90:99:6f	10.10.20.111	802.11a/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	Not Associated	0	Enabled	H-REAP
<input type="checkbox"/> demo-AP1262N-FE	98:66:f2:67:68:93	10.10.20.102	802.11b/g/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	10.10.10.5	0	Enabled	H-REAP
<input type="checkbox"/> demo-AP1262N-FE	98:66:f2:67:68:93	10.10.20.102	802.11a/n	System_Campus > BuildingS1 > 1st Floor	10.10.10.5	0	Enabled	H-REAP

1. WCS から、有効になる前に AP の 802.11b/g および 802.11a を両方無線ディセーブルにして下さいか。拡張 wIPS エンジン。か。注: アソシエートされたすべてのクライアントが切断され、無線が有効になるまで接続しません。
2. 1 つの AP を設定するか、複数の Lightweight AP で WCS 設定テンプレートを使用します。  
[図 6.参照して下さい。](#) [図 6 : 拡張 wIPS エンジン \( ELM \) サブモードの有効化](#)

### Access Point Detail : demo-AP3502i-S

Configure > [Access Points](#) > Access Point Detail

#### General

AP Name	demo-AP3502i-S	<a href="#">Requirements</a>
Ethernet MAC	00:22:90:e3:37:dc	
Base Radio MAC	00:22:8d:d1:71:10	
Country Code	US	
IP Address	10.10.20.103	
Admin Status	<input checked="" type="checkbox"/> Enable	
AP Static IP	<input type="checkbox"/> Enable	
AP Mode	Local	
Enhanced wIPS Engine	<input checked="" type="checkbox"/> Enable	
AP Failover Priority	Low	
Registered Controller	10.10.10.5	
Primary Controller Name	wlc	

### Access Point Detail : demo-AP1142n

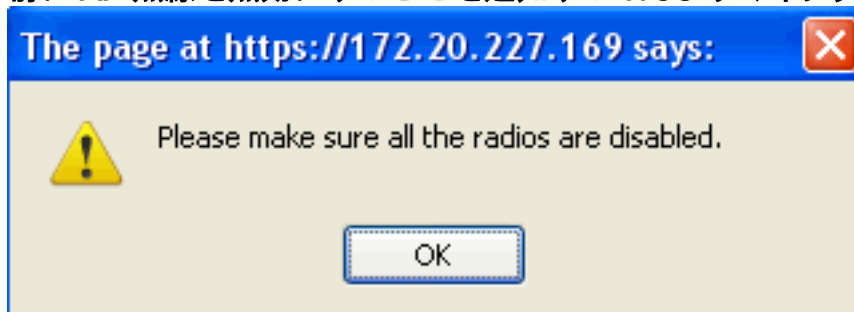
Configure > [Access Points](#) > Access Point Detail

H-REAP settings cannot be changed when AP is enabled.

#### General

AP Name	demo-AP1142n	<a href="#">Requirements</a>
Ethernet MAC	00:22:90:90:99:ef	
Base Radio MAC	00:22:90:93:4a:50	
Country Code	US	
IP Address	10.10.20.101	
Admin Status	<input checked="" type="checkbox"/> Enable	
AP Static IP	<input type="checkbox"/> Enable	
AP Mode	H-REAP	
Enhanced wIPS Engine	<input checked="" type="checkbox"/> Enable	
AP Failover Priority	Medium	
Registered Controller	10.10.10.5	
Primary Controller Name	wlc	

- [Enhanced wIPS Engine] を選択して、[Save] をクリックします。拡張 wIPS エンジン を有効にすると、AP はリブートされません。H-REAP がサポートされています。ローカル モード AP の場合と同様に有効にします。注: この AP のいずれかの無線が有効な場合、WCS は設定を無視して、[図 7](#) のようなエラー メッセージを表示します。図 7 : ELM を有効にする前に AP 無線を無効にすることを通知する WCS リマインダ



- 設定成功は APモードの変更のからの観察によって確認することができますか。ローカルか H-REAP か。ローカル/wIPS か H-REAP/wIPS に。[図 8](#) を参照してください。図 8 : WCS による wIPS にローカルまたは H-REAP、あるいはこれらの両方を追加する AP モードの表示

	<u>AP Name</u>	<u>Ethernet MAC</u>	<u>IP</u>	<u>Admin Status</u>	<u>AP Mode</u>
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP3502i-S</a>	00:22:90:e3:37:dc	10	Enabled	Local/wIPS
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP3502i-S</a>	00:22:90:e3:37:dc	10	Enabled	Local/wIPS
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP1260</a>	f8:66:f2:ab:1f:96	10	Enabled	Local/wIPS
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP1260</a>	f8:66:f2:ab:1f:96	10	Enabled	Local/wIPS
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP3502i-J</a>	c4:7d:4f:3a:ed:48	10	Enabled	Local/wIPS
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP3502i-J</a>	c4:7d:4f:3a:ed:48	10	Enabled	Local/wIPS
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP3502i-MM</a>	c4:7d:4f:3a:06:62	10	Enabled	H-REAP/wIPS
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP3502i-MM</a>	c4:7d:4f:3a:06:62	10	Enabled	H-REAP/wIPS
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP1142n</a>	00:22:90:90:99:6f	10	Enabled	H-REAP/wIPS
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP1142n</a>	00:22:90:90:99:6f	10	Enabled	H-REAP/wIPS
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP1262N-FB</a>	f8:66:f2:67:68:93	10	Enabled	H-REAP/wIPS
<input type="checkbox"/>	<a href="#">demo-AP1262N-FB</a>	f8:66:f2:67:68:93	10	Enabled	H-REAP/wIPS

- 手順 1 で無効にされた無線を有効にします。
- wIPS プロファイルを作成し、コントローラにプッシュして、設定を完了します。注: wIPS での設定の詳細については、『[Cisco Adaptive wIPS Deployment Guide](#)』を参照してください。

## WLC からの設定

図 9 : WLC での ELM の設定

Cisco							
MONITOR W-LAN CONTROLLER WIRELESS SECURITY MANAGEMENT COMMANDS HELP FEEDBACK							
Wireless							
All APs							
Current Filter None [Change Filter] [Clear Filter]							
Number of APs 8							
AP Name	AP Model	AP MAC	AP Up Time	Admin Status	Operational Status	Port	AP Mode
<a href="#">demo-AP3502i-J</a>	AIR-CAP3502i-A-K9	04:7d:4f:3a:ed:48	4 d, 06 h 50 m 10 s	Enabled	REC	13	Local
<a href="#">demo-AP1262N-FB</a>	AIR-CT5502N-A-K9	f8:66:f2:67:68:93	4 d, 06 h 50 m 35 s	Enabled	REC	13	H-REAP
<a href="#">demo-AP3502i-S</a>	AIR-CAP3502i-A-K9	00:22:90:e3:37:dc	4 d, 06 h 50 m 07 s	Enabled	REC	13	Local
<a href="#">demo-AP1260</a>	AIR-CT5502N-A-K9	f8:66:f2:ab:1f:96	4 d, 06 h 49 m 59 s	Enabled	REC	13	Local
<a href="#">demo-AP1142n</a>	AIR-CT5502N-A-K9	00:22:90:90:99:6f	0 d, 00 h 53 m 47 s	Enabled	REC	13	H-REAP
<a href="#">demo-AP3502i-MM</a>	AIR-CAP3502i-A-K9	04:7d:4f:3a:06:62	0 d, 00 h 53 m 35 s	Enabled	REC	13	H-REAP

- [Wireless] タブから AP を選択します。図 10 : wIPS ELM を追加するための WLC による



## AP サブモードの変更

The screenshot shows the Cisco WLC configuration interface for 'demo-AP3502i-J'. The 'General' tab is selected, and the 'AP Sub Mode' dropdown menu is open, showing 'None' and 'WIPS' options. The 'WIPS' option is highlighted. Other configuration details include AP Name, Location, AP MAC Address, Base Radio MAC, Admin Status (Enable), AP Mode (local), Operational Status (None), and Port Number (13). The 'Versions' section shows software and boot versions.

2. [AP Sub Mode] ドロップダウン メニューから、[wIPS] を選択します ( 図 10 )。
3. [Apply] をクリックし、設定を保存します。

注: ELM 機能を使用するには、MSE および WCS で wIPS ライセンスが必要です。AP サブモードを WLC から変更するだけでは ELM は有効になりません。

## ELM で検出される攻撃

表 1 : wIPS シグニチャ サポート一覧

検出される攻撃	EL	M
	M	M
<b>AP に対する DoS 攻撃</b>		
アソシエーション フラッド	Y	Y
アソシエーション テーブル オーバーフロー	Y	Y
認証フラッド	Y	Y
EAPOL-Start 攻撃	Y	Y
PS-Poll フラッド	Y	Y
プローブ要求フラッド	N	Y
認証されないアソシエーション	Y	Y
<b>インフラストラクチャに対する DoS 攻撃</b>		
CTS フラッド	N	Y
クイーンズランド工科大学により検出された脆弱性	N	Y
RF 電波妨害	Y	Y
RTS フラッド	N	Y
仮想キャリア攻撃	N	Y
<b>ステーションに対する DoS 攻撃</b>		
認証失敗攻撃	Y	Y
ブロック ACK フラッド	N	Y
De-Auth ブロードキャスト フラッド	Y	Y
De-Auth フラッド	Y	Y

Dis-Assoc ブロードキャスト フラッド	Y	Y
Dis-Assoc フラッド	Y	Y
EAPOL-Logoff 攻撃	Y	Y
FATA-Jack ツール	Y	Y
不完全な EAP-Failure	Y	Y
不完全な EAP-Success	Y	Y
<b>セキュリティ ペネトレーション攻撃</b>		
ASLEAP ツール検出	Y	Y
Airsnarf 攻撃	N	Y
ChopChop 攻撃	Y	Y
WLAN のセキュリティ異常による Day-Zero 攻撃	N	Y
デバイスのセキュリティ異常による Day-Zero 攻撃	N	Y
AP のデバイスプローブ	Y	Y
EAP メソッドへの辞書攻撃	Y	Y
802.1x 認証に対する EAP 攻撃	Y	Y
偽の AP の検出	Y	Y
偽の DHCP サーバの検出	N	Y
高速 WEP クラック ツールの検出	Y	Y
フラグメンテーション攻撃	Y	Y
ハニーポット AP の検出	Y	Y
Hotspotter ツールの検出	N	Y
不正なブロードキャスト フレーム	N	Y
不正 802.11 パケットの検出	Y	Y
中間者攻撃	Y	Y
NetStumbler の検出	Y	Y
NetStumbler 犠牲者の検出	Y	Y
PSPF 違反の検出	Y	Y
ソフト AP またはホスト AP の検出	Y	Y
スプーフィングされた MAC アドレスの検出	Y	Y
疑わしい営業時間外のトラフィックの検出	Y	Y
ベンダー リストによる未承認アソシエーション	N	Y
未承認アソシエーションの検出	Y	Y
Wellenreiter の検出	Y	Y

注: CleanAir を追加すると、非 802.11 攻撃の検出も有効になります。

図 11 : WCS wIPS プロファイル ビュー

## Profile Configuration

Configure > wIPS Profiles > wips-elm > Profile Configuration

Back Next Save Cancel

### Select Policy

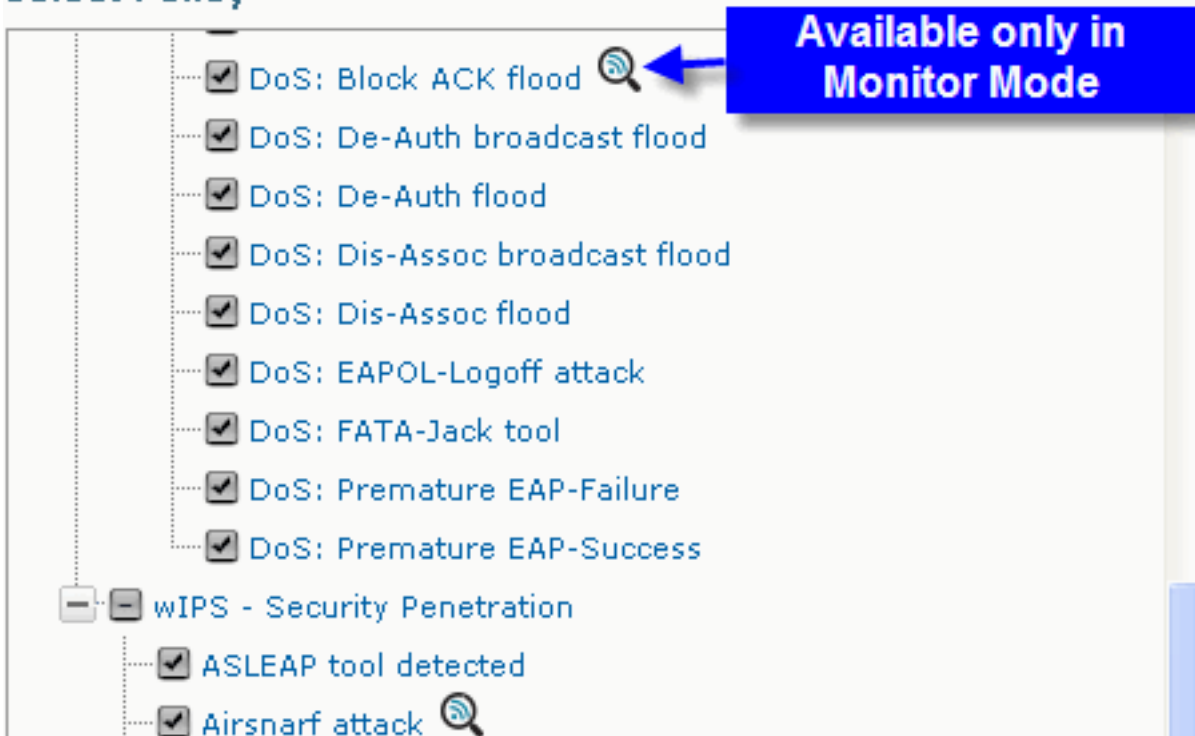


図 11 では、wIPS プロファイルを WCS から設定します。アイコンは、AP が MM の場合だけ攻撃が検出され、ELM の場合はベスト エフォートだけであることを示します。

## ELM のトラブルシューティング

次のことを確認してください。

- NTP が設定されていることを確認します。
- MSE 時間が UTC で設定されていることを確認します。
- デバイス グループが機能していない場合、[Any] でオーバーレイ プロファイル SSID を使用します。AP をリブートします。
- ライセンスが設定されていることを確認します ( 現在、ELM AP は KAM ライセンスを使用しています )。
- wIPS プロファイルが頻繁に変更される場合、MSE コントローラを再び同期化します。プロファイルが WLC でアクティブになっていることを確認します。
- 次のように MSE CLI を使用して WLC が MSE の一部であることを確認します。SSH または telnet で MSE に接続します。/opt/mse/wips/bin/wips\_cli を実行します。このコンソールは、適応 wIPS システムの状態に関する情報を収集するために、次のコマンドにアクセスするときに使用できます。wlc をすべて示して下さい。wIPS コンソールの中で発行して下さい。このコマンドは、MSE で wIPS サービスとアクティブに通信するコントローラを確認するときに使用されます。図 12 参照して下さい。図 12 : MSE CLI による MSE wIPS サービスが WLC でアクティブかどうかの確認

```
wIPS>show wlc allWLC MAC Profile ProfileStatus IPonx
Status Status-----
-----00:21:55:06:F2:80 WCS-Default Policyactive on controller
```

172.20.226.197Active

- MSE CLI を使用してアラームが MSE で検出されるか確認します。show alarm list : wIPS コンソール上で実行します。このコマンドは、wIPS サービス データベース内に現在含まれているアラームをリストするとき使用されます。Key フィールドは、特定のアラームに割り当てられた一意なハッシュ キーです。Type フィールドは、アラームのタイプです。この図 13 は、アラーム ID および説明のリストを示しています。図 13 : MSE CLI の show alarm list コマンド

```
wIPS>show alarm listKey Type Src MACLastTime Active First Time-----  
-----89 89  
00:00:00:00:00:00 2008/09/0418:19:26 2008/09/07 02:16:58 165631 95 00:00:00:00:00:00  
2008/09/0417:18:31 2008/09/04 17:18:31 01989183 99 00:1A:1E:80:5C:40 2008/09/0418:19:44
```

2008/09/04 18:19:44 0 First Time および Last Time フィールドは、アラームが検出されたときのタイムスタンプを示します。これらは、UTC 時間で保存されます。Active フィールドは、アラームが現在検出されているかどうかを示します。

- MSE データベースをクリアします。MSE データベースが壊れている場合、または他のトラブルシューティング方法が機能しない場合、データベースをクリアして、やり直すことを推奨します。図 14 : MSE サービス コマンド  
1. /etc/init.d/mse stop  
2. Remove the database using the command 'rm/opt/mse/locserver/db/linux/server-eng.db'  
3. /etc/init.d/mse start

## 関連情報

- [Cisco Wireless LAN Controller コンフィギュレーション ガイド、リリース 7.0.116.0](#)
- [Cisco Wireless Control System コンフィギュレーション ガイド、リリース 7.0.172.0](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)